

宗教者の「祈り」と「行動」～東日本大震災に際して～

未曾有の大惨事となった東日本大震災の犠牲者の御靈の安寧と被災者すべての方々の平癒と回復、そして原子力発電所の大事故の早期収束を心から祈念いたしました。

天地自然の恐るべき威力の前に、ただただ言葉もありません。生命を生かし育んでくれるのも自然の大いなるはたらきなら、その余りにも大きな力ゆえに、今回のような猛威と恐れおののかざるを得ない強烈な影響をもたらすのも自然だということを、言い訳無用に突き付けられた思ひです。四季折々の生み出す豊かな恵みに感謝するとともに、火山列島・地震列島ならではの厳しさにひれ伏すような心で、わが国の先人たちは森羅万象のはたらきを八百萬神と称え、そのすべての本たる太陽を天照大御神と崇めて、敬い、慎み、畏み（恐み・怖み）奉ってきた惟神の道が神道であることを、今さらながらに実感させられます。

地震発生直後、何はさておき「東北地方太平洋沖地震 被災者慰靈・復興祈願祝詞」の作成を本教の全教会所に指示して同じ心で祈り続けることを徹底

し、各教会所での義援金の募集を開始しました。同時に、私が事務局長をつとめるRNN（人道援助宗教NGOネットワーク）のメンバーと、宗派・教団を超えた「祈り」と「行動」につとめました。

RNNは、主に岡山県内の諸宗教（現在十二の宗派・教団が加盟）による協働連合体です。宗教間対話と宗教協力による人道援助活動を共通基盤として、平成八年の発足以来様々な活動を行ってきました。

一方、メンバーの一人である真言宗僧侶がAMDAスタッフとして三月十七日から十日間にわたりて被災地（岩手県釜石市と大槌町）に入りました。救援活動をサポートとともに、被災を免れた曹洞宗寺院の法要に参列して岡山のメンバーと時刻を併せて祈りを捧げ、それが縁で同寺院住職からの依頼で複数の遺体安置所で読経して物故者の冥福を祈りました。

そして、三・二一から五十日目の四月一十九日、有志による「RNN慰靈祭」を執行しました。黒住教本部神道山の日拝所において、現地報告と黙祷、そして真言宗・金光教・カトリック・天台宗・黒住教による祈りが捧げられました。同時刻に、メンバーの日蓮宗僧侶が宮城県石巻市の神社境内で、宮司と金光教の教長とともに慰靈祭をつとめました。

今後も、「祈りに基づく行動」と「行動を伴う祈り」に心がける宗教者でありたいと願っています。



黒住教副教主
黒住宗道



RNN慰靈祭